

こども家庭審議会 第6回基本政策部会
「こども・若者の参画・意見反映について」意見書

尼崎市ユースカウンスル事業「Up to You!」第1期代表
大学3年生
原田 伊織

(1) こども若者は社会と一緒に社会をつくる対等なパートナー

どのような意見であっても正当に尊重されるべきであり、施策との関連性が見えやすい意見に偏ることのない意見反映を実現させるためには、大人社会側の意見を受け止める姿勢が重要である。

- こども若者自身による意見の“翻訳”に頼らない意見聴取の在り方
全てのこども若者が、施策に具体的に直結する意見を述べることは不可能であるという視点を持ち、大人社会側がどのような意見であっても施策との関連性を見出す努力をすべきだと考える。
いわゆる「意見の翻訳（意見を要約・まとめる・言語化する等）」をこども若者に任せてしまうと、意見を言えるのは一部に限定される懸念があるため、大人社会側の姿勢が重要である。
多様な形がある意見を受け止め反映させるためには、こども家庭庁だけでなく、省庁横断・施策横断的に、こども若者の意見を反映していく必要がある。
- 「意見」とは
こども若者参画・意見反映において、「意見」はまとまった内容や要約したものでないといけないといった考えもあると思うが、本来は、こども若者が感じたことそのものも尊重されるべき意見であることから、特にこども若者に発信する場合には、「意見」はどのようなものを指すのか、具体例などを挙げると良い。

(2) こども・若者の委員登用を実効力あるものにするために

こども・若者の委員登用を実際に効果あるものにするために、こども・若者委員割合の目標数値を定めるとともに、こども若者の参画状況を振り返る仕組みの確立が必要である。また、国レベルのこども若者委員の登用においては、こども・若者委員に代表性が必要だと考える。

- アライバづくりにならない、実効力ある若者参画

国レベルの審議会への若者参画はこれまでより一步踏み出した取組ではあるが、参加させただけのアライづくりにならないように留意が必要である。

仮に、アライづくり的な参画になったとしても早く抜け出すことが重要であり、そのためには、若者の参画状況等を適切に振り返る仕組みが必要である。

参画している若者が会議内で影響力を持てるように、情報支援等のサポートを充実させることが重要である。

- こども・若者委員の代表性

現在は、若者が参加することに意味があるとされる風潮があるが、若者が影響力を発揮するためには、明確な過程のもとで、若者を代表する人が委員として参画すべきだと考える。

一方で、若者のみで構成されるような会議体では、若者の多様性を担保するために代表性だけに限らず、幅広い若者の委員を集める必要がある。

こども・若者委員の選抜が仕組みで担保されていない現状では、個人への責任が大きすぎる課題がある。国の政策にとっても、参加当事者にとっても明確な過程のもとでの参画が合理的であり、必要である。

実際に参加している若者委員当事者としても、「若者枠」での参画は、「私個人の意見＝若者の意見」と思われる可能性が高く責任を重く感じている現状がある。

(3) 「こども若者への適切な情報保障」視点の追加

こども若者の参画・意見反映を実効力あるものにするためには、こども若者への適切な情報保障が重要であり「こども・若者の参画・意見反映について」の中に、「こども若者への適切な情報保障」の視点の追加を提案する。

- こども若者への情報保障の必要性

大人社会は「こども若者参画」と称し社会の一員としてこども若者に責任を付与する場合に、こども若者が社会について考えることができるように適切な情報提供や学習のプロセスを確保すべきである。

- こども若者への情報保障での留意点

こども若者にとって行政の施策は馴染みがなく、考えたこともないような事柄が多くある。こども若者の参画・意見を聞くための情報提供をする際には、こども若者の日常生活でイメージしやすい具体例を示す、こども若者にわかりやすい資料の提示などをして、全てのこども若者が理解できる情報提供に留意する必要がある。

- こども若者への情報保障での期待される効果

学習等の中で課題を身近に感じることができることで当事者意識に繋がり、こども・若者が当事者としての課題発見につながるのではないかと。

実際に、専門委員会の委員として見学したこども家庭庁の事業「いけんひろば～若者と食の今後を考える！～」では、参加した中高生から「事前資料があったから理解が進んだ」等の発言があった。

- 「情報提供」は、こども・若者参画サイクルの始まり
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの「意義あるこども参加のサイクル構築」では、意見形成の前の段階として「情報提供」を定め、情報提供→意見形成→意見表明→フィードバック→情報提供…のサイクルを提唱している。
情報提供は、参画・意見反映の好循環にも必要なパーツになり得る。

(4) こども若者の身近にいる大人への支援

こども若者が安心して意見を表明できるようになるには、大人社会からのこども若者への眼差しを変えるとともに、大人が意見表明している姿をこども若者が見ることも重要である。また、関わる大人たちが、こども若者の主体性の発揮をサポートできることが必要であり「こども・若者の参画・意見反映について」に、大人社会へのアプローチの視点を追加することを提案する。

- 大人社会の価値観の変革を促すことの必要性
大人社会がこども若者参画に意義を感じていないと、制度を作っても形骸化する恐れがある。
大人社会が「こども若者が貢献できる」と信じ、こども若者とともに活動の主体・意思決定を共有できるようになるためには、こども若者へのアプローチはもちろん、大人社会側へのアプローチを展開することが必要である。
- 大人が大人の声聞くことが、こども若者参画を促進する
「若者の声に耳を傾けよう！」という前に大人が「大人」の声を聞き、大人社会に対して安心して意見を表明している姿を日常的に見ることにより、こども若者が安心して意見形成して意見を表明できるようになる。
- こども若者を日常的に支える大人への支援
現在、教員の働き方、学童保育の給与の低さなど、こども若者に関わる大人たちの働き方や雇用形態が不安定であり、日常的に接する大人たちがそうした環境下では、こども若者の主体性の発揮を難しくさせる。

(5) ユースカウンスル、若者団体との連携に関して

ユースカウンスルや若者団体との「連携強化」に留まるのではなく、そうした子ども若者が主体の活動が増える、さらに活動しやすくなる助成制度の確立など、環境整備、間接的な支援に関する方針を立てることを提案する。

ユースカウンスルや、子ども若者の社会参画において、子ども若者が活動の主体として参画していることが重要であり、大人社会側が目的やテーマを決めて参加させただけでは、若者の主体的な参画とは言えない。このことから、子ども若者が主体になる活動を増やしていくことが、子ども若者参画の発展に大きく貢献すると考える。

- 大人社会側が、ユースカウンスルや若者を「道具化」する懸念

ユースカウンスルや子ども若者が、「子ども・若者の参画・意見反映」という旗の下で道具にならず、実際に、子ども若者が主体となって行う活動になるための取組が必要である。

大人社会側がテーマを課して子ども若者に任せることは、子ども若者の主体性の尊重ではなく、「道具化」であり、子ども若者の主体的な参画とは言えない。

参加の形は、社会貢献活動やサークル活動などの多様な形があり、それは子ども若者自身の意思決定によって選んでいくことが重要である。

- 社会参画の方法のひとつである「ユースカウンスル」

ユースカウンスルは、社会の中で若者の影響力を高めるための社会参画を重視している活動であり、若者の意見反映が主目的ではない。結果的に、子ども若者の意見を代表し、意見反映をしている場合もあるが、それは参画している子ども若者の主体性によって達成されるものであり、参画の伴わない意見反映が目的であると「言って終わり」の状態に陥りやすいと考える。

- 環境整備や間接的な支援、金銭的支援が整うことが重要

ユースカウンスルや若者団体の活動は、若者が主体となって活動していることが重要であり、目的や在り方を外部的に定めることはせずに活動を支援することが必要である。

参考資料・文献

- 1) NTT データ「こども政策決定過程におけるこどもの意見反映プロセスのあり方に関する調査研究【諸外国の取り組み収集】調査対象国の取組報告書」
- 2) 水野篤夫「若者の参加とユースワーク」 (http://ys-kyoto.org/wp-content/uploads/2017/01/YS_29_04.pdf)
- 3) 国立青少年教育振興機構（2021）「高校生の社会参加に関する意識調査報告書」
 - ・両角（2023）「欧州のユースカウンシルに学ぶ子ども・若者の意見反映を形骸化させないための考え方」
 - ・こどもまんなかフォーラム第3回 能條氏 配布資料
 - ・こどもまんなかフォーラム第6回 高井氏 配布資料